

作業部会による検討

作業部会の意見を反映した事務局案

1 人口	2 児童数に占める支給認定子どもの割合 （「需要率」とする）	3 量の見込みと確保方策
------	-----------------------------------	--------------

1-1 作業部会に提示した案

計画時の手法を用いた見直し
(27~29の推計値を実績に置き換え、30~31を推計)

【案①】

区全域の見直しを実施する

【案②】

人口増傾向のある北部・東部を見直し

2-1 作業部会に提示した案

【案A】 28.4実績

国の手引きによる基本の補正方法

【案B】 29.4実績

案Aの代わりに、直近の実績を使用

【案C】 案B+「潜在需要」

潜在需要に相当する「量の見込み」を上乗せ

3-1 作業部会に提示した案

【人口案①】 【人口案②】

×

【需要率案A】 【需要率案B】 【需要率案C】

合計 6ケースの量の見込みと確保方策を提示

【計画との差】

量の見込み -264人~+769人

確保方策 +591人~+1,324人

1-2 作業部会での意見と検討結果

- ・ 計画期間内(~31年度末)に大規模開発等の予定はなく、地域によって差をつける理由はない。
- ・ どの地域も計画と実績の差異が発生しており、全ての地域での見直しが妥当。

2-2 作業部会での意見と検討結果

- ・ 計画期間内の保育需要の確保は喫緊の課題。
- ・ 国の見直し方法では実績による置き換えとしているが、実績だけでなく、潜在需要も見込む必要がある。
- ・ 国による「子育て安心プラン」の内容は、次期計画策定時等に検討することとする。

3-2 作業部会での意見と検討結果

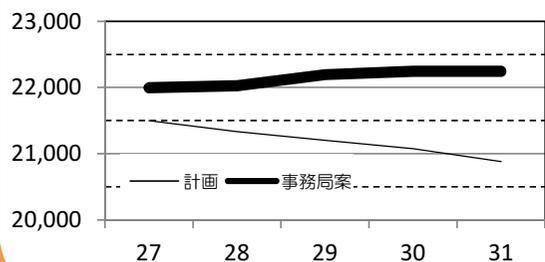
- ・ 認可保育所や小規模保育所等の施設整備を継続し、待機児童解消を目指す。
- ・ 小規模保育事業所は、一部を幼稚園との連携とし、いわゆる「3歳の壁」を抑制する。
- ・ 必要な児童がきちんと利用できるよう、施設整備の数や地域を精査する必要がある。

1-3 作業部会の検討結果をふまえた案

【案①】 区全域について見直しを基本とする

- ・ 計画時の手法に加え「葛飾区人口ビジョン」の年少人口の推移を加味した人口推計とする

見直し—計画差 +1,362人 (31.4)



詳細は資料2-8参照

2-3 作業部会の検討結果をふまえた案

【案C】 29.4実績に「潜在需要」を加味した需要率

- ・ 28.4（国手引きによる基本）との差は約4%
- ・ 29.4（直近実績）との差は約1%

	第3号		第2号		合計			
	0歳	1・2歳	3歳以上					
東部	30%	3%	59%	5%	59%	3%	54%	3%
西部	31%	7%	53%	5%	51%	2%	48%	4%
南部	32%	4%	57%	5%	57%	7%	53%	6%
北部	31%	9%	51%	1%	52%	2%	49%	2%
合計	31%	6%	55%	4%	54%	3%	51%	4%

右側は28.4実績との差↑

詳細は資料2-9、2-11参照

3-3 作業部会の検討結果をふまえた案

【案①】 × 【案C】 による量の見込みと確保方策

- ・ 見直し後の保育需要(11,264人)を満たすには、確保方策として2,291人(計画との差+1,046人)の増が必要
- ・ 小規模保育施設の連携の一部を幼稚園で想定

計画値	量の見込み	10,594人
	確保方策	11,113人
見直し後	量の見込み	11,264人
	確保方策	12,159人
計画との差	量の見込み	+670人
	確保方策	+1,046人

詳細は資料2-10参照